

信州木曾看護専門学校自己評価に対する外部評価委員の意見

1 項目別

(1) 大項目Ⅱ学校運営

- 「環境論」「地域で生活する人を知る実習」「人間関係論」等の特色あるカリキュラムを設定するなど、教育理念・目標達成のための取り組みに努力されている。こうした学習は特徴的でありもっとアピールしていけるとよい。
- 看護師が不足する中、教員の確保も難しくなっているため、大学等との情報共有を行っていく必要がある。

(2) 大項目Ⅲ教育活動

- きめ細かな指導、地域との交流、特色ある教育などの特徴があり、県外等にもアピールできるのではないかと。
- 森林セラピーは木曾町出身の方が研究を行い、国際的にも実証段階まで来ている。こうした内容を学べる機会があることは子供たちに知らせ、興味を持ってもらいたい。
- 実習施設である木曾病院が出産休止となった場合に周産期の実習はどのように行うか、他病院で行うのか、など検討が必要である。

(3) 大項目IV学修成果

- 国家試験4年連続100%合格は、学校側の努力と、学生が十分な基礎看護力を身に着けた成果だと思う。
- 令和6年度の卒業生の就職について、県立病院機構への就職は2名、木曾地域への就職は1名と少なかった。また、修学資金を受けている卒業生が返還免除の就業期限が終了し、自立できた頃に外に出てしまうという問題もある。木曾地域での看護師不足は深刻であり、どのように地域に残ってもらうかが課題である。
- 木曾病院への入職者減少について、長期休業中に木曾病院で募集している看護助手アルバイト（サポートスタッフ）に参加することで、病院職員との交流を持て、入職につながる可能性がある。

(4) 大項目V学生支援

- 学生アンケートからも高水準の評価を得ており、献身的に学生と関わっていると思った。中退者の増加に対して要因は様々だろうが、生徒一人一人の思いを聞き、メンタルケアを引き続き行ってほしい。
- 昨年のアンケートで空き時間の有効利用についての意見があったが、対応はどうか。→課題や模試等、クラスで計画的に時間を使っている。2時限3時限の空きゴマに課題に取り組む、時々早く帰るなどの対応を

行っている。

(5) 大項目VI教育環境

- 昨年課題となった冷房設備の設置についてはどうか→すべての教室の冷房設置が完了し、使用できるようになった。
- 施設面でも徐々に改善を行っており、努力が感じられる。

(6) 大項目VII学生の受け入れ募集

- 学生募集については、学生数が減少し、看護関係の学校が増えている状況では厳しい。授業料等の費用が安く、国家試験の合格率 4 年連続 100%、きめ細かい指導と特色ある教育という魅力があるので、そういう部分をアピールしていったらどうか。
- 昨年課題となっていた社会人受け入れへの対応が進み、今年度新しい取り組みが始まっている。社会人経験のある学生がいることは他の学生にも良い影響を与えることもあるため進めてほしい。
- 県内の高校訪問先や指定校を増やしていることは評価できるが、県外等も考慮するなどグローバルに展開してもよいのではないか。
- 県外から入学した学生が卒業時に木曾地域や県内に残ってもらうためには、生活してみたいくなる必要があるため、そのためには地域の方たちの協力を得なければならない。

- 木曾病院では高校生職業体験や中学生の看護師体験などを行っている。
学生確保のためには小中学校の子供たちから看護師の仕事に興味をも
ってもらうことが重要である。
- 高校訪問等の活動の成果を分析し、効果的な広報手法の確立や、中高生
へのアプローチの強化を図ってほしい。